

## 話題の商業施設

### さいたま新都心にできた低層モール “コクーン新都心”

「さいたまスーパーアリーナ」をはじめ官公庁関連施設や住宅施設等、複合的な都市機能の集積が進む「さいたま新都心」の交通の核 = JR 京浜東北線「さいたま新都心」駅東口駅前に、エンターテインメント型ショッピングセンター「コクーン新都心」が、2004年9月オープンした。



駅からペDESTリアンデッキでつながる同施設は、地上2階建ての2棟の商業施設と立体駐車場とで構成されている。商業棟は、白を貴重に、屋根と壁が曲線を描きながら一体化し、内部をくるむような丸みを帯びている建物デザインが特徴的である。

駅前立地の商業施設であれば、高度利用する駅ビル型建築が一般的であるが、低層の面開発を実施。その結果、魅力的なオープンモールとインナーモールの調和を実現する一方、駅側から駐車場側まで、商業棟の全長は約250mに及ぶ長大な空間を形成することになった。



キーワードは「生活にワンランク上の上質な娯楽をもたらす“エンターテインメント型ショッピングセンター”」である。上質な暮らしを彩るこだわりのショップ、オシャレで雰囲気の良いカフェ&レストラン、そしてシネマコンプレックス(12館)など、訪れる誰もが心を躍らせる、暮らしにときめきと安らぎを提供する121の専門店が7つのゾーンから構成されている。

さいたま市初出店が約70店舗、さらにその内の約50店舗が埼玉県初出店と、オリジナリティを打ち出す一方、核となる食品スーパー「ライフ」や大型書店「紀伊国屋書店」等、20代~40代の女性と一緒に訪れる層にも満足のいく高品質のMDを展開している。

開業から一ヶ月で来場者数が約181万人(一日平均約5万8千人)と好調な滑り出しを見せており、新都心に誕生した最新の商業施設としての注目度、期待感の高さが伺

える。

2004年4月にステラタウンがオープンし、同じく12月には新都心にイオンの大型ショッピングセンターがオープンするなど、大宮駅を挟み競合が一層激化してきており、今後の動向が注目される場所である。

ちなみに、ショッピングセンター名の「コクーン」は英語で書くと「COCOON」、 “繭” のことである。片倉工業の創業事業である、製糸業から来ている。(K)